

# オキナワの旅2024 報告集

《作成:参加大学 代表者派遣 学生》

岐阜大学・金城学院大学・名古屋工業大学・名古屋市立大学・三重短期大学・名城大学

旅行企画・実施

大学生協事業連合

旅行センター 東海

東京都知事登録旅行業第 2-2467号  
〒466-8657 名古屋市昭和区山手通2丁目16-1

〈企画〉  
全国大学生生活協同組合連合会 東海ブロック

# 大学生協オリジナルピーススタディツアー 「オキナワの旅」5日間開催しました！

この「オキナワの旅」は、東海地方にある21の大学生協が協同して企画している旅行で、今年で33年目の歴史を重ねています。

## 「オキナワの旅」のポイント！3選

### ①【学び】のある旅

本物のガマ（自然洞窟、鍾乳洞のこと。戦時中には住民の避難場所などに使われた）やひめゆり平和祈念資料館を見学し、**戦争や平和について考えるきっかけ**となりました！



### ②沖繩の大自然や文化を肌で感じられる！



1日目、5日目のフライト前後は那覇市内、3日目は海洋博公園周辺にてフリータイムがありました。名物料理や観光を通して、**楽しみながら学ぶ**ことができました。

沖繩の風土を直に感じることで、沖繩戦を「**自分事**」として捉えられていました。

### ③大学を超えた交流が生まれる

下記の通り、実に12大学の学生が参加しました。学んだことを話しあったり、フリータイムを一緒に楽しんだり、5日間を通して交流を深めることができました。



## 参加者(計35名)

愛知大学（2名）、愛知県公立大学（2名）、岐阜大学（2名）  
金城学院大学（1名）、静岡大学（2名）、名古屋大学（1名）  
名古屋工業大学（4名）、名古屋市立大学（5名）、日赤豊田看護大学（2名）  
日本福祉大学（3名）、三重短期大学（1名）、名城大学（4名）  
コープ愛知（3名）、大学生協職員（随員3名）

# オキナワの旅2024 工程表

ご実家の保護者様用のご日程表です。参加者のみなさまからお渡しください。

ご実家用「オキナワの旅2024」ご日程表 (2024年9月1日出発→9月5日帰着)				
日程	月日	行程	宿泊先	食事
1日目	9月1日 日	<b>【中部国際空港（セントレア）から沖縄那覇へ】</b> ●中部国際空港 第1ターミナル3階特別待合室A1 10:30集合 中部国際空港にて出発前オリエンテーション + 中部国際空港 (12:30発) →SKY555便 (スカイマーク航空) →那覇空港14:50着 ゆいレールにて那覇市内(ホテルチェックイン後フリータイム)へ・・・那覇市内(泊)	那覇市  ホテルアザット 那覇	朝：× 昼：× 夕：×
2日目	9月2日 月	<b>【戦争体験から平和について考える】</b> ●ホテル 8:00出発 ➡ 沖縄戦の戦跡見学 (★ガマ遊跡塚・★沖縄平和祈念公園・★ひめゆりの塔/平和祈念資料館 ★道の駅かでな・安保の丘) ➡ (夜) 本部(泊)	本部  マリンビアザオキナワ	朝：○ 昼：○ 夕：○
3日目	9月3日 火	<b>【沖縄の自然を体験する】</b> ●ホテル 8:30出発 ➡ 海洋博公園 (徒歩) 美ら海水族館(フリータイム)	本部  マリンビアザオキナワ	朝：○ 昼：× 夕：×
4日目	9月4日 水	<b>【沖縄の文化を体験する】</b> ● ホテル 8:10出発 ➡ コザミュージックタウン(まちまーいにて戦後の歴史と多文化共生体験)着 ➡ 那覇市内(泊)	那覇市  ホテルアザット 那覇	朝：○ 昼：○ 夕：×
5日目	9月5日 木	<b>【出発まで自由行動】</b> (国際通りなど那覇観光をお楽しみください) ホテル・・・(各自にて移動)・・・フリータイム・・・(各自負担)・・・那覇空港 (13:20集合) チェックイン 手荷物検査 搭乗口へ 那覇空港 (14:30発) → SKY554便 → 中部国際空港 (16:40着) 到着後解散		朝：○ 昼：× 夕：×

## 主な訪問先情報

沖縄県営平和祈念公園

<https://heiwa-irei-okinawa.jp>



ひめゆり平和祈念資料館

<https://www.himeyuri.or.jp>



海洋博公園

<https://oki-park.jp/kaiyohaku/>



道の駅かでな

<https://michinoeki-kadena.jp/>



# オキタビでの5日間

## 1日目 移動・フリータイム

中部国際空港から那覇へ向かいました。  
沖縄到着後は那覇市内を自由に観光しました。



## 2日目 平和学習・基地学習

ガマや沖縄平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館を巡りました。また、移動中には道の駅かでなを訪問したり、基地の横を通過したりと**今の沖縄が抱える問題**にも触れました。



### 3日目 フリータイム(海洋博公園・もとぶ元気村)

海洋博公園周辺でフリータイムとなりました。美ら海水族館で過ごしたり、もとぶ元気村でマリンアクティビティを楽しんだりと**沖縄の自然に触れる**ことができました。



### 4日目 まちまーい



コザミュージックタウンで、「まちまーい」を体験しました。**基地問題について学ぶ**と共に、多くの国の文化が入り混じったコザらしい雰囲気を感じることができました。

### 5日目 フリータイム(那覇市内)・移動

最終日は、沖縄出発までフリータイムでした。

1日目に回れなかったところを観光したり、お土産を買ったりしました。



# オキタビ参加者の声

・きっかけは沖縄を旅行したいという思いだったが、楽しいアクティビティと同じくらい、平和学習が印象に残った。  
(名古屋市立大学)

・知識としての沖縄戦とは違うことがたくさんあった。自分は沖縄のことを何も分かっていないと痛感した。  
(三重短期大学)

・広島や長崎の平和学習とはまた違ったよさがあった。現在まで続く基地問題は沖縄に行くからこそ実感できた。  
(愛知県立大学)

・沖縄と言えば「海」「砂浜」というイメージが変わるような旅でした。楽しいことにも触れたからこそ、戦争を自分事に捉えることができました。  
(静岡大学)

# 参加者からのオキタビ報告 (大学別)

- 岐阜大学
- 金城学院大学
- 名古屋工業大学
- 名古屋市立大学
- 三重短期大学
- 名城大学

# オキナワの旅 2024 報告書

5日間訪れた場所、  
体験したことをご  
紹介します！

Day 2

ガマ

Q “ガマ”って何？

A 自然発生した鍾乳洞や洞窟のことで、沖縄の方言です

かつて人々の戦争の避難場所になった場所です。中は非常に暗く、湿気が多かったです。防空壕と言っても自然にできた洞窟なので人が住むには過酷な環境でした。ここで戦争中に身を寄せていたことを考えると、当時の人々の過酷さや不安は想像を絶するものだったのだろうと感じました。



+ひとこと👁️

ガマには沖縄の住民だけでなく、日本兵もいました。ガイドの方の話によると、ガマの中で泣き叫ぶ赤ん坊は敵(米軍)のスパイだと疑われて日本兵により殺められてしまうこともあったそうです。

Day 2

ひめゆり平和祈念資料館

Q なぜ“ひめゆり”って言うの？

A 当時2つの学校の愛称「乙姫」と「白百合」を掛け合わせて「ひめゆり」と言います

資料館の中に、経験者の証言の動画がありました。戦争の残酷さを学びました。

また、資料館では女学生が学徒隊として本格的に動員されるまでの学生生活も描かれていました。そのため、学徒隊として日本兵の手当をするひめゆりの学徒隊の資料を読んだ際に、より一層、戦時下の過酷さを痛感しました。



+ひとこと👁️

資料館に、ひめゆりの学生の顔と名前が紹介されている部屋がありました。80年近くも前の方のお名前が一つ一つ丁寧に紹介されていることで、ご家族・ご親族・地域の方々の想いを肌と感じました。



## Day 2

### かでな 嘉手納基地



## Q “基地問題”って何？

**A** 在日する米軍所有の軍用基地に関する問題です。国土面積の約0.6%の沖縄県に日本の米軍基地の約70%が集中しています。騒音、墜落事故、自然環境への影響、米兵が起こす犯罪などが懸念されています。

「僕の街には基地がある」

嘉手納基地横には資料館があります。米軍基地がある街で暮らす少年が、父母、祖父母から戦時中、戦後の占領下の話を聞く中で、少年の街に基地がある意味を考えていく物語が描かれていました。基地問題について考えていく少年と自分が自然と結び付けられていき、自分自身も基地問題について考えていくことができました。

## Day 4

### コザ

ガイドの方に連れられてまちまーい(沖縄の方言で散策するという意味)を行いました。英語表記の看板が多いこと、両替所があることなど、街には戦後の占領下から続くアメリカ風のサイネージや建築物が多いです。一方で、日本語表記の建物も多く、文化の入り混じった街だと感じました。

米軍基地が街のはずれに位置していましたが、その先はアメリカ合衆国カリフォルニア州。緊張が走っている地帯なので写真撮影を控えるよう、ガイドの方から厳しく注意されました。

## Q “コザ”って何？

**A** 沖縄県沖縄市の中心街の一角の愛称のことです。米軍基地が隣接しているため、異国情緒あふれる街です。



# 旅の思い出！

## 沖縄そば



紅ショウガのアクセント  
が印象的でした！

沖縄の名物の1つです！麺と  
ダシの組み合わせが抜群！  
お土産におすすめ！

## サンゴ礁



小型船に乗ってサンゴ  
礁を見に行きました～



ボートに乗ってサンゴ礁を  
見ました！海ならではの  
自然を間近で感じるこ  
うことができました！

## 自動販売機



オキナワならではの飲み物がありました！

## 首里城

修復中の首里城を見学するこ  
うことができました！私たちがい  
るすぐ先に職人達が真剣な表  
情で作業していました。



岐阜大学生協学生委員会

## 福州園



中国の雰囲気を感じ  
る建物です！  
映える撮影ポイント  
が盛りだくさん！

## BLUE SEALのアイス



2日目ひめゆり平和  
記念資料館近くの売  
店で初ブルーシール。



3日目エメラルド  
ビーチ近くの売店で  
再度・・・

これ以外にもホテルの売  
店でブルーシールアイス  
を食べました。Tシャツも  
買ってしまいました！



# オキタビ 2024

金城学院大学 生活環境学部 食環境栄養学科 2年

# 参加理由

---

- 平和について深く考える  
きっかけづくり
- 自分自身の成長に繋がりたい
- 沖縄の文化や自然に触れたい
- 仲間と協力して活動したい



# ガマ

---

ガマとは：沖縄戦時中、住民や兵士が  
避難した自然洞窟のこと

利用目的：

避難場所、病院、倉庫

特徴：

- ・ 暗く湿気がある
- ・ 狭い空間
- ・ 足場が悪い



# ひめゆりの塔、 ひめゆり平和祈念資料館

## ひめゆりで学べる事

- 犠牲の重み
- 若い命が失われたこと(戦争の残酷さ)
- 平和の大切さ

## 印象に残ったこと

- 学徒隊の強さ



# コザミュージックタウン

コザミュージックタウンで学べる事

- ・騒音問題(生活への影響)
- ・経済への影響
- ・環境問題

気づき

- ・戦争は過去のことではない
- ・政治と生活の繋がり



# 沖縄の文化について

- 首里城、福州園 1日目、5日目  
沖縄の歴史、文化を学べる
- 美ら海水族館、もとぶ元気村 3日目  
豊かな自然に触れられる
- 国際通り 4日目  
多様な文化が混ざり合う街並み



# 感想

---

**この沖縄での経験を通し、  
平和の大切さ、多様な価値観、  
そして自分の成長を実感しました。**



# 今後について

---

- ・ 今回の旅で得た学びや経験を共有したい
- ・関わった人々へ感謝の気持ちを伝えたい
- ・今後の活動に繋げていきたい



# オキタビ2024

## 名古屋工業大学

オキタビで訪れた場所、そこで感じたことを紹介していきます！



### ①美ら海水族館



巨大な水槽を泳ぐジンベイザメやナンヨウマンタの餌やりの様子が大迫力でした！

水族館ではあまり展示されていないオオグソクムシなどの深海生物が展示されていて非常に楽しめました！

### ②もとぶ元気村



自分たちが乗っているボートを水上バイクで左右に激しく揺らされるビッグマーブルを体験しました。

スピード感があり爽快感満載で楽しかったです！とてもスリリングでした！



### ①嘉手納基地



嘉手納町の大部分が基地となっていて、自分たちの住む街に置き換えて考えると、とんでもないことだと思いました。騒音などの公害や落下物などの危険性もあり問題が山積みであることを再認識できました。

### ③国際通り



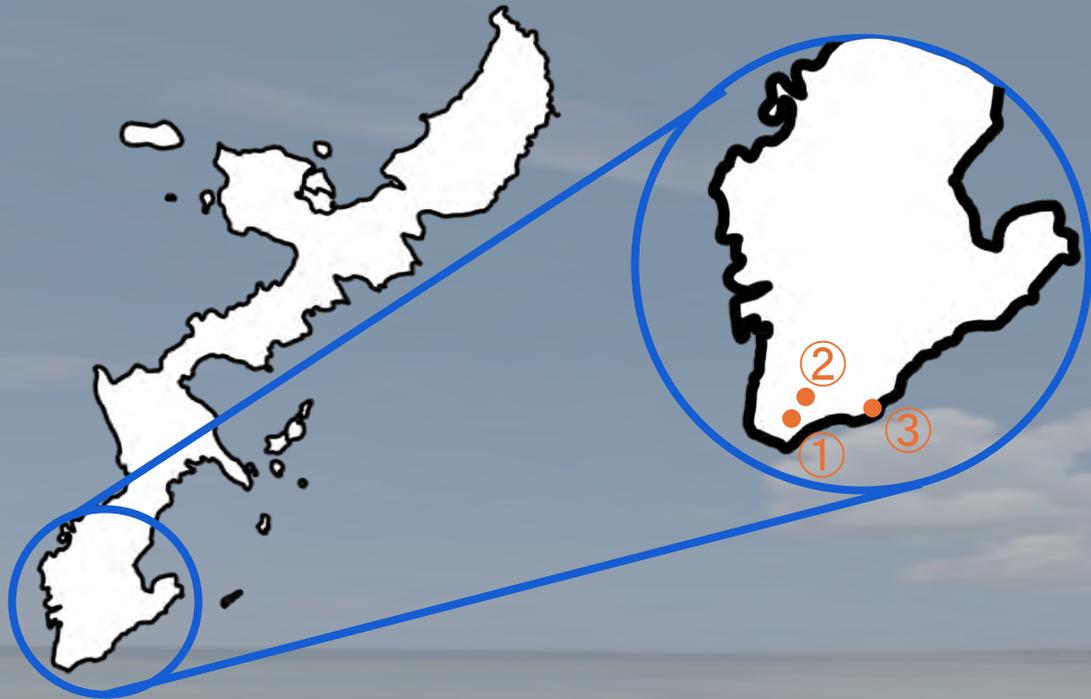
紅いもタルトやブルーシール、ステーキをはじめとする様々な沖縄ならではの料理が提供されているお店がありました！

2つのお店のステーキを食べ比べてみましたが、どちらも美味しかったです！

### ②コザの街



米軍基地が近くにあるということもあり、街並みが日本ではなくアメリカのような街並みでした。米軍基地との境界線があり、緊張感が感じられました。



## ②ひめゆり平和祈念資料館



沖縄戦を体験した人々が沖縄戦について話しているビデオや、ひめゆり学徒隊の人々を書き残した証言集から、当時の悲惨さや絶望的な戦況がひしひしと感じられました。

## ①沖縄陸軍病院本部壕



普通に立つことができないほど狭く、懐中電灯を消すと周りが全く見えなくなるほど暗い場所でかなり恐怖を感じました。また、天井から水滴も落ちてくるので、このような場所で生活し続けることは非常に精神的に辛かったらうと感じました。

## ③平和祈念公園



想像以上の数の沖縄戦で亡くなった人たちの名前が石碑に刻まれており、当時どれだけ多くの方が戦火に巻き込まれたのかが分かりました。また、戦争がどれほどの人を苦しめたのかが石碑から伝わってきました。

# オキタビ報告集 名古屋市立大学

## オキナワの旅とは

東海ブロックの大学に通う大学生と一緒に5日間、オキナワを体験できる総合的なスタディーツアーです。「オキナワの旅」を通して一般のツアーではなかなか行く機会のない沖縄戦の戦跡をみて歴史を学んだり、平和とは何かを考えることができます。

フリータイムも十分にあるため、沖縄の自然や食べ物、文化を味わえます。



## オキタビに参加した理由

Fさん

沖縄で起こったことを次の世代につなげていく必要があると思ったからです。世界でも比較的安全な日本に住み何不自由なく生活している私は過去にこの日本で凄惨な出来事が起こったことは日本史という枠組みの中でしか知りませんでした。しかし、そうした座学と現地に行き行って事実を知ることは別物だと感じました。一人でも多くの方が日本にこのようなことが起きたことを座学ではなく肌で感じる学習をする必要があると思います。それを地道につないでいき記憶の継承をすることが大切だと思ったからです。

Kさん

戦争や平和についてより理解を深めるとともに、自分にできることについて考えるために参加しようと思いました。今まで自分が経験することがなかった貴重な体験ができると感じたことがきっかけでした。沖縄の地に足を踏み入れたことがまだなかったので、実際に現地に赴くことで、現在の沖縄はどのように戦争を語り継いでいっているのかを知ることができるのではないかと考えました。学校の授業で戦争や平和について学ぶ機会は幾度もありましたが、それだけでは知ることのできない歴史について知りたいと思いました。

# 平和学習について

## ガマ見学

今回は沖縄陸軍病院本部壕というガマにいきました。ガマとは沖縄の方言で自然にできた鍾乳洞や洞窟のことを指しています。戦争中のガマは負傷した兵士を治療する野戦病院として、非難した人々の生活の場として、戦争に備えるための軍の陣地用として使用されました。足場がとても悪く岩がゴツゴツしていて、足腰の弱いお年寄りや子供、負傷した人がガマに行くのはとても危険な場所でした。ガマの中には当時使用されていた割れた陶器があり、当時の人々の生活の場を感じました。アメリカ軍にガマの存在が見つからないように子供が泣いたらその場で殺してしまったという話を聞いたときにとても複雑な気持ちになりました。



## ひめゆりの塔・ひめゆり平和資料館

ひめゆりの塔・ひめゆり平和資料館は 1989年6月23日に沖縄で行われた凄惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく伝えていくために建てられました。秘話資料館には沖縄戦でどのようにアメリカ軍が進軍してきたのか、女学生たちは当時、ガマの中でどのような仕事をしていたのか、など巨大パネルでの展示がありました。当時の人々が身につけていたものの展示だけでなく、当時女学校の在籍していた上学生の顔写真とその性格、そしてどのようななくなったのかまで詳細に記してありました。また、戦争の詳細な体験が綴られた証言集は映像だけでなく、紙媒体でも追体験できるようになっており、ある程度ゆとりのある滞在時間でしたが、全てを読み切ることはできませんでした。「もっとここにいたい。もっと知りたい。」とむずがゆくなったことを覚えています。帰ってから学習・共有できるようにガイドブックを購入しました。



## 嘉手納基地

道の駅かでなに行って嘉手納基地を遠くから見学しました。嘉手納基地は3700メートルの滑走路を2本有し、100機ほどの軍用機が常駐する極東最大の空軍基地です。嘉手納基地の面積は約15km<sup>2</sup>ですが、82%もの土地が基地に使用されており、ほとんどアメリカ軍に土地を奪われています。道の駅かでなには源氏あいの嘉手納基地ができた経緯を詳細に説明してある学習展示室がありました、そこでは基地による騒音や匂いを体験できるブースがありました。嘉手納町に住む人にインタビューした映像学習から、飛行機の飛び立つ音が大きすぎて高校の授業を中断しなければならないということを知り、基地と嘉手納町の人々の生活は密接に関わっているということを知りました。



## 文化について

### まちまーい

4日目は沖縄市内を「まちまーい」しました。「まちまーい」とは沖縄の方言で「街巡り」という意味です。ガイドさんに案内してもらって沖縄市内の街を散策しました。沖縄市は国際色豊かな多文化共生の街といわれ、61ヶ国の人々がお互いの意見を認めながら生活しています。そのため20数ヶ国の外貨と交換することができる両替所が市内の至る所にありました。ヒストリートという建物では、戦後どのようにして日本に復帰していったのかという過程が記された展示物があり、詳しく学ぶことができました。沖縄は1972年間から27年間アメリカによって統治され、アメリカ軍の許可がないと営業することができませんでした。お昼にタコスを食べたお店でも当時のサインを見ることができました。



# フリータイム

## 美ら海水族館

美ら海水族館では一番の目玉であるジンベイザメを見ました。大きな水槽にジンベイザメが泳いでいる様子は圧巻でした。また、ジンベイザメやマンタが餌を食べている姿は普段見ることができないので貴重な体験をすることができました。そのほかにも珍しい魚を見ることができました。海洋博公園内ではイルカショーが開催されていたのでショーを見たり、ビーチに降りて海を間近で感じました。



## もとぶ元気村

もとぶ元気村ではドルフィンウォーキングツアーとグラススケッチの2つのアクティビティに参加しました。ドルフィンウォーキングツアーでは水槽の近くでイルカを間近で観察することができました。一見同じような顔や体に見えて一頭一頭に違いがあってとてもかわいかったです。性格も全然違って泳ぎ回ることが好きなイルカもいれば、ずっと私たちの近くにいて見つめているイルカもいました。とても癒やされました。グラススケッチでは、赤・青・水色の三色からグラスを一つ選んでイルカや亀、ハイビスカスの絵柄を描きました。時間をかけて自分だけのグラスを仕上げたので愛着がわきました。形に残る思い出を作ることができて良かったです。



# 今回の旅を通して

Kさん

5日間を通して感じたことは、何事においても「実際に自分で見て、聞いて、感じる」ことが非常に重要であるという点です。戦争や平和について考えるというのは、数式のように決まっているものを学ぶことではなく、自分で体験して、自分の考えをもつことであると思いました。沖縄に行く前すでに自分が教科書や授業を通して知っていたことは、わずか一部にすぎませんでした。今回の経験から自分が感じたこと考えたことを共有していくとともに、今を生きる自分たちだからこそ、平和について何ができるのか考えていこうと思います。

Fさん

今回の旅を通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さを実感することができました。今回私はこのような素晴らしい機会を得ることができ、肌で感じることができましたが、全員が全員このような体験をすることは難しいです。共有をするにしても一方通行的なものではなく、双方向に意見を交流することを大切にしたいと思いました。受け取った情報をそのまま受け止めるだけでなく、自分が何を感じ、どう行動していきたいのか、そして他の人はどのように考えているのか。そうしたことを共有できる場を積極的に作っていきたいと感じました。





**オキタビ 2024**

**参加報告書**

**津市立三重短期大学**



みなさんは

「くまのぬいぐるみ」

という単語を聞いて、  
何を思い浮かべますか？

「可愛らしい」

「小さい時に持ってたよ」

といったイメージがほとんどだと思います。

今回、

沖縄における 5 日間の平和学習の旅で、  
私の平和に対する価値観は大きく変わりました。

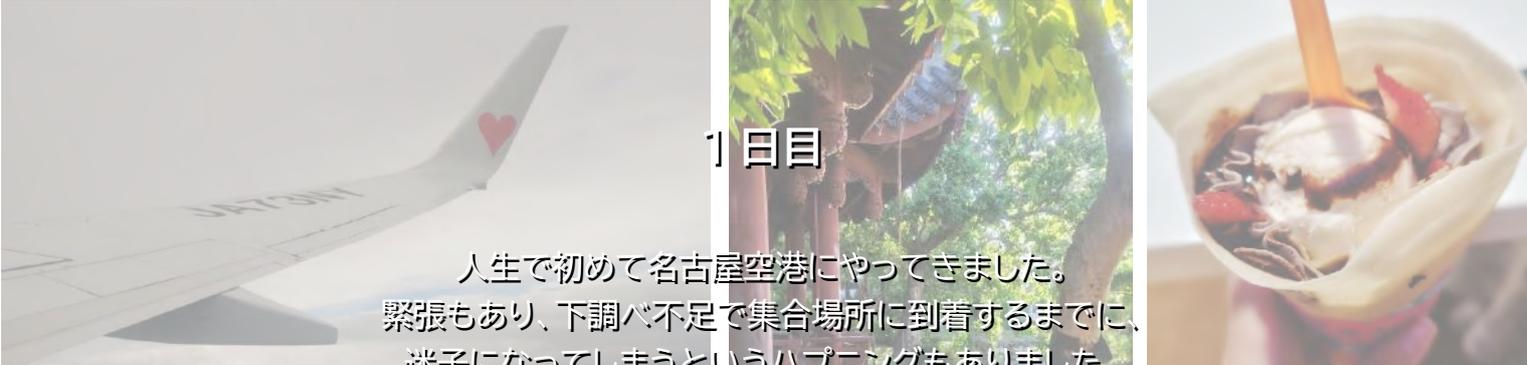
沖縄陸軍病院本部壕  
沖縄県営平和記念公園  
ひめゆりの塔  
ひめゆり平和記念資料館  
コザミュージックタウン...

これらの施設を訪問する他、  
現地で生きる方の生の声や、  
戦争を体験し、平和とは何かをいうことを  
強く訴える活動家の声を聴きました。

また、美しい沖縄の風景や、豊かな食文化に舌鼓を打ち、  
日常生活では得ることのできない知識を知ることができました。

是非皆さんにも、今回の旅を紹介したいと考え、  
こちらの参加報告書を作成することに決めました。  
楽しんでいただければ幸いです。





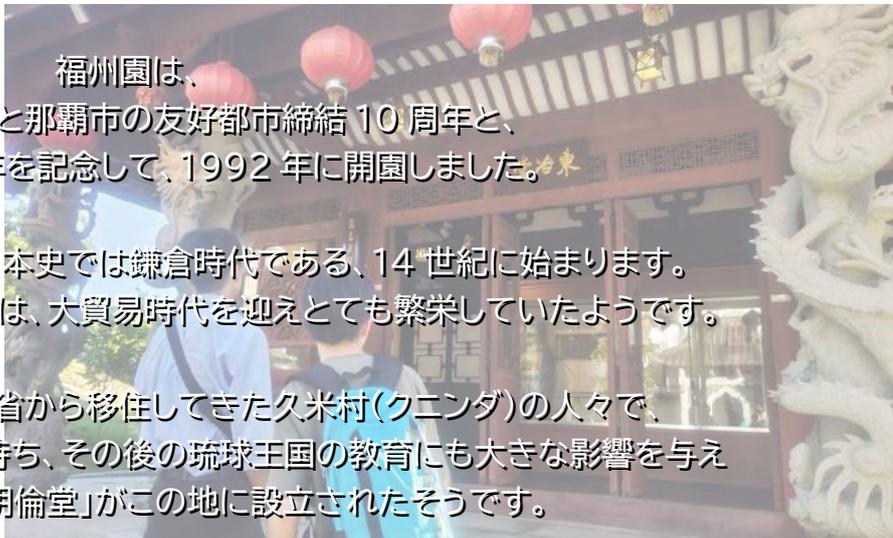
## 1日目

人生で初めて名古屋空港にやってきました。  
緊張もあり、下調べ不足で集合場所に到着するまでに、  
迷子になってしまうというハプニングもありました。

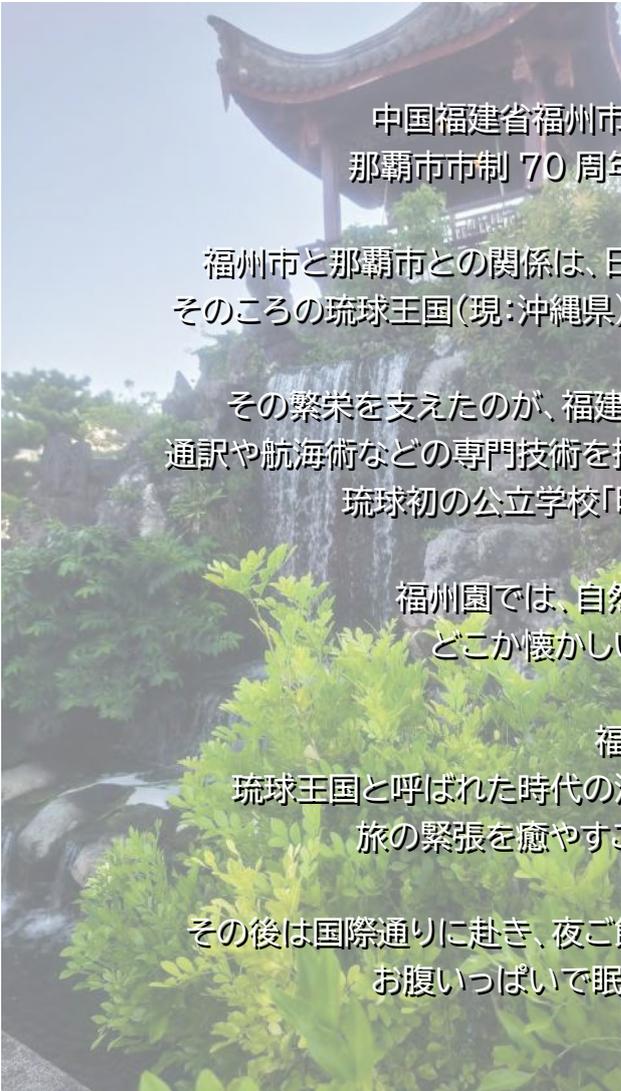
オキタビでは、グループに分かれて行動します。  
同じグループの子と、休憩時間に軽食をとり談笑しました。

那覇空港まではあっという間で、  
景色を見て過ごすメンバー  
到着まで仮眠をとるメンバー  
隣同士の席で盛り上がるメンバーと、様々いました。

ホテルに到着後、チェックインを済ませ、  
私たちの班は自由時間に  
沖縄都市モノレール(通称:ゆいレール)  
県庁駅前から徒歩10分ほどの場所に位置する  
福州園(ふくしゅうえん)を訪問しました。



福州園は、  
中国福建省福州市と那覇市の友好都市締結10周年と、  
那覇市市制70周年を記念して、1992年に開園しました。



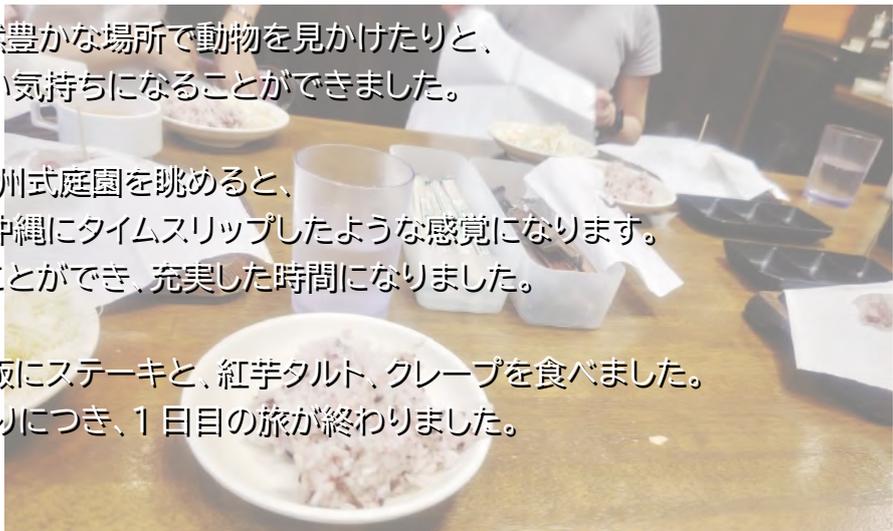
福州市と那覇市との関係は、日本史では鎌倉時代である、14世紀に始まります。  
そのころの琉球王国(現:沖縄県)は、大貿易時代を迎えとても繁栄していたようです。

その繁栄を支えたのが、福建省から移住してきた久米村(クニンダ)の人々で、  
通訳や航海術などの専門技術を持ち、その後の琉球王国の教育にも大きな影響を与え  
琉球初の公立学校「明倫堂」がこの地に設立されたそうです。

福州園では、自然豊かな場所で動物を見かけたりと、  
どこか懐かしい気持ちになることができました。

福州式庭園を眺めると、  
琉球王国と呼ばれた時代の沖縄にタイムスリップしたような感覚になります。  
旅の緊張を癒やすことができ、充実した時間になりました。

その後は国際通りに赴き、夜ご飯にステーキと、紅芋タルト、クレープを食べました。  
お腹いっぱい眠りにつき、1日目の旅が終わりました。



## 二日目

オキタビ参加者全員がバスに乗りこんでの、  
平和学習への旅が始まりました。

最初に訪れたのは、沖縄陸軍病院本部壕(通称:ガマ)です。  
戦争を知るガイドさんが、先頭に立ち奥へ奥へと進んでいきます。

ガマ周辺は、草木が多く、虫がたくさんいました。  
ガマは地下に続く深い溝です。  
近くには、慰霊の塔が建てられていました。

ガイドさんの説明によると、戦時中、民間人はあらめ疑いをかけられ、  
無差別に殺されてしまったとのこと。

例えば

赤ちゃんが壕の中で泣いたりすれば、敵の居場所を教えるスパイであるとして…  
女性の方がいると、本当は男で性別を偽っているとして…  
壕の中に「誰がいるか」と声をかけて、返事がなかったから…  
殺されてしまったというのです。

日本軍は、「民間人を守るため」と正統な理由を掲げ、戦争を行っていましたが、  
実際は、民間人はいっさい守られず、  
上記のような理由をつけられ、殺されてしまうことの方が多かった、と聞きました。

ガマ周辺には木がたくさんあり、どこにガマがあるのか、最初全く分かりませんでした。  
そして、入り口はかなり急な斜面になっており、岩肌が荒々しいため、  
進んでいくのは大変でした。

運動靴、軍手、懐中電灯を身につけ進んでいくのですが、岩などにつかまり  
ゆっくり進まなければ、今にも滑って怪我をしまいそうな場所でした。

ようやく斜面を下り、地面につくと、床は水分をたくさん含んだ泥まみれ。  
歩くにはベちゃベちゃして進みづらい場所でした。

オキタビに参加している皆が、懐中電灯を用いて照らしながら進んでいるのにも関わらず、  
ガマは薄暗かったです。  
所々天井が低くなっていたので、頭をぶつけているメンバーもいました。

少し進むと、三角コーンがあり、バーでつながっていました。  
どうやら、あまり奥までは行けないような造りになっているようです。

「ここで一旦、懐中電灯を消してください」  
と、ガイドさんから指示がありました。  
皆、言われたように灯りを一斉に消しました。  
さっきまで一緒に進んできたメンバーの気配が分からないほど、暗く、衝撃を受けました。

私が訪れたのは9月で、もう秋口に差し掛かっているというのに、  
ガマの中は空気がじめじめしている上にかなり蒸し暑いです。  
実際に戦争がおき、ここが病院として使われたのは6月であったといいます。  
当時、今よりもさらに蒸し暑かったと思うと  
この場所がどれほど過酷な環境であったのだろうか、胸が苦しくなりました。

沖縄陸軍病院本部壕は、沖縄方面第32軍直属の陸軍病院本部があった場所です。  
沖縄戦において、南部に戦線が移ってくると、それに合わせて負傷した兵を救護する  
病院壕も、南部のガマへ移ってくるというわけです。

1945年6月14日の爆撃により、病院長をはじめとし、  
衛生兵や、従軍していたひめゆり学徒隊の生徒がここで戦死を遂げました。  
この真っ暗で、誰がどこにいるのか分からないような場所に患者が何人も運ばれ、  
さらに物質のない状態で治療が行われていたという話しは  
にわかには信じ難かったのですが、実際に起きた事実なのでした。

ガマを出ると、まだ時間に余裕があるということで、  
ガイドさんにガマ周辺も案内していただきました。

ガマの周りには、もともと家があった場所が残されていました。  
小屋のようなものがあり、その中には遺骨などが納められていると聞きました…。

ガマ周辺の家の方々は、  
同じ日本に生まれ育った、味方であるはずの日本兵によって無惨にも殺されたのです。  
一家心中を囚った家族も多くいた、と聞き、胸が締め付けられました。

民間人が無差別に殺された悲慘な歴史には、  
アメリカ兵による民間人の無差別虐殺だけでなく、  
日本軍の蛮行も多くあった、ということを忘れてはいけません。  
戦争が、人を鬼にした跡が、このガマに残っているのを感じました。

ガマを出て、少し歩いてバスに乗り  
沖縄県営平和記念公園に着きました。

平和記念公園には、平和の礎(いしじ)が  
想像していたよりもたくさんありました。



平和の礎は、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑です。

礎の数が多いということは、  
それほど戦死者が多かったということでもあり、  
戦争によってどれだけ多くの人々が苦しい思いをしたのだろう…  
と、深く思い知らされました。

また平和の礎には、日本人だけではなく海外(=敵国)の方の名前も刻まれていました。

国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられた  
「すべての人々」の氏名が刻まれた礎は、

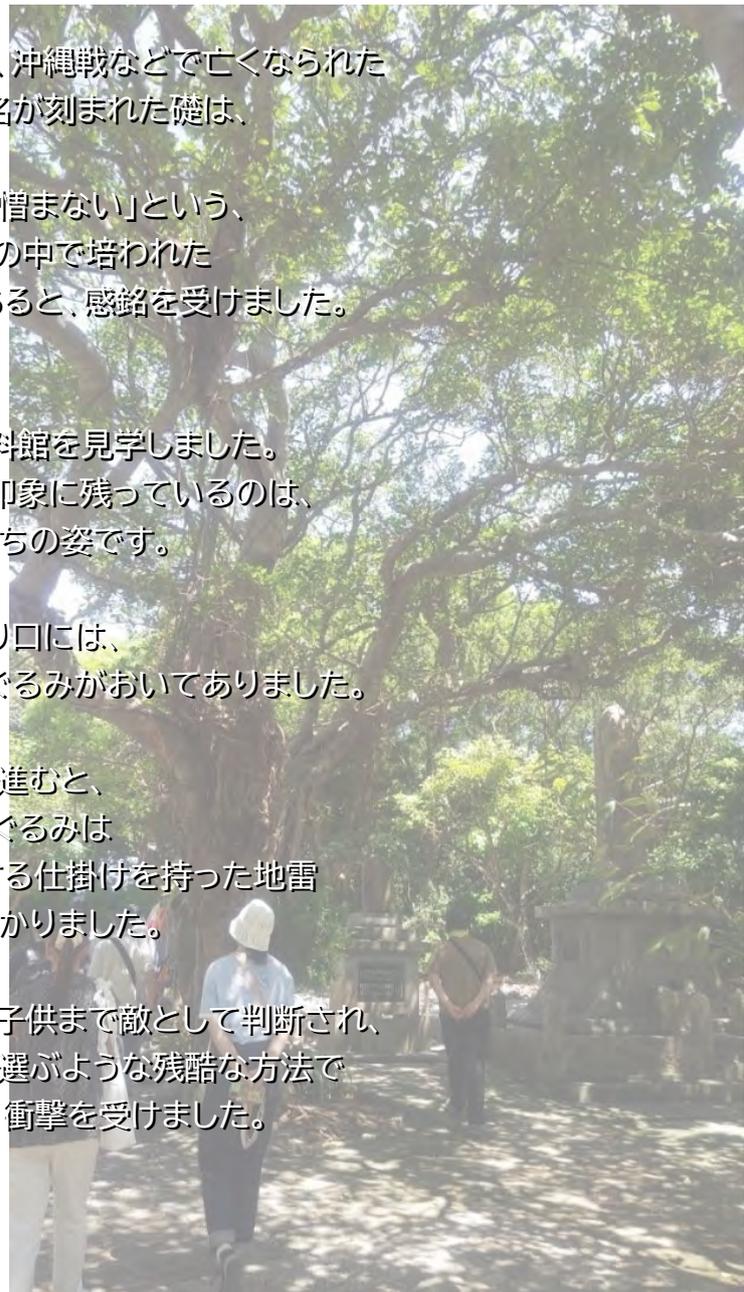
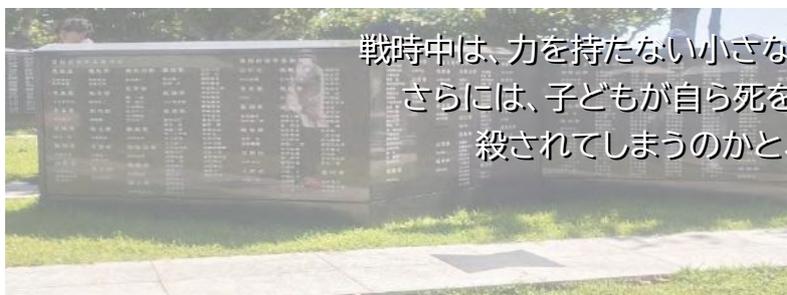
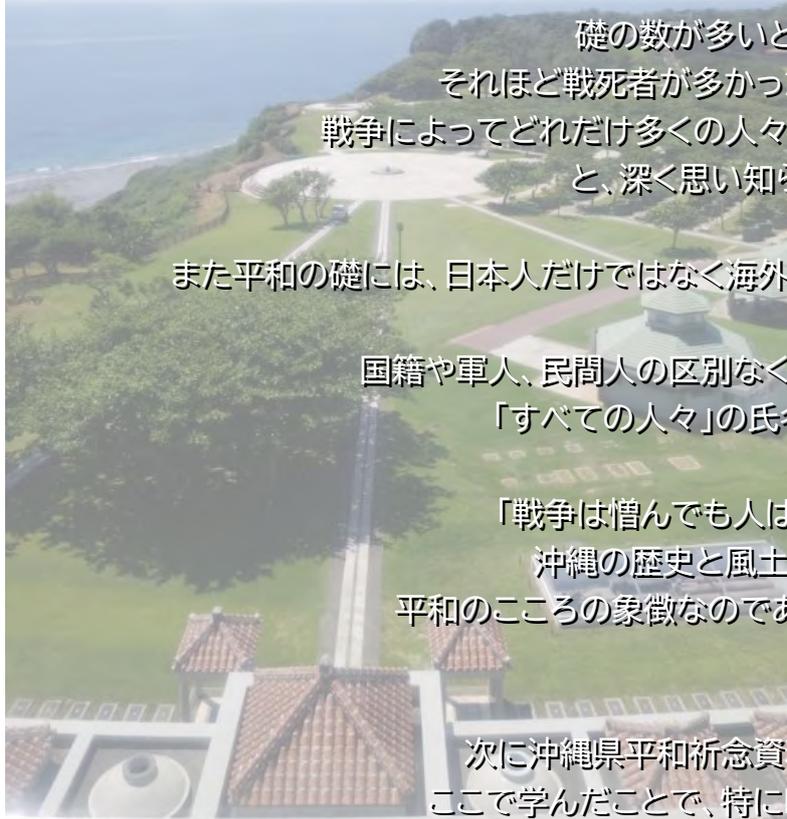
「戦争は憎んでも人は憎まない」という、  
沖縄の歴史と風土の中で培われた  
平和のこころの象徴なのであると、感銘を受けました。

次に沖縄県平和祈念資料館を見学しました。  
ここで学んだことで、特に印象に残っているのは、  
戦時中の子供たちの姿です。

展示場の入り口には、  
子供が好きそうなくまのぬいぐるみがおいてありました。

展示室へと進むと、  
くまのぬいぐるみは  
子供が手にしたとき爆発する仕掛けを持った地雷  
であることが分かりました。

戦時中は、力を持たない小さな子供まで敵として判断され、  
さらには、子どもが自ら死を選ぶような残酷な方法で  
殺されてしまうのかと、衝撃を受けました。



平和祈念資料館を出発した後は、  
バスに乗り、次の目的地であるひめゆり会館につきました。

すぐにひめゆり会館には向かわず、  
ちょうどお昼の時間になったので、  
目的地の近くで沖縄そばを食べました。

沖縄そばは、そばといっても太いラーメンのような麺で、  
変わった見た目をしていました。

伝統的な沖縄料理は、初めて食べましたが、  
意外にもあっさりした味でおいしかったです。  
国際通りで食べたステーキや、カロリーの高そうなデザートを考えると、  
正反対な食べ物であるように感じました。

オキタビメンバー全員で食事を済ませた後は、  
班ごとにひめゆりの塔、ひめゆり平和記念資料館へと向かいました。

ひめゆりの塔ではたくさんの花がお供えされていて、  
約 200 名ほどの住民がこの場所で亡くなったのだと説明を受けました。

ひめゆり平和記念資料館では、  
沖縄戦の歴史、当時の生活の様子など、さらに詳しく学ぶことができました。

ひめゆりの生徒たちは、壕の中で  
腕など、戦場で切断されたところからわくウジ虫を取ったり、  
排便の処理、食事の支度などを行っていたようです。

排便の処理や、食材をとりに行くときは  
壕の外に出なければならなかったのですが  
外では絶えず空襲など起こっているのも、  
死を覚悟する仕事であったそうです。

証言集の展示室には、

「壕の中での治療は、医療品が十分がないので麻酔なしで治療する」

という言葉があり、  
自分まで痛みを錯覚してしまうような体験をしました。

学生1人1人がどのような人物で、  
どのような死因であったかということが  
写真付きで壁に飾られている展示室へと進みました。

「おとなしい性格であった」とか  
「バレー部に所属していた」等、  
当時の学生のことを知れば知るほど、  
心が苦しくなっていました。

爆発を受け死んでしまった学生が多いとの記載や、  
私と同じくらい、もしくは年下の学生たちが  
苦しんだ生活の様子を見るのは、  
とても辛かったです。

最後に、生き残った方々が  
証言をされているビデオを観ました。

写真や文字を読むだけの資料とは異なり、  
生きた人間の、生身の声を聞くと、  
証言者の感情が自分の中に入り込んでいくような感覚になりました。

当時の女学生が体験したような、  
悲しい歴史を繰り返してはいけない、という強いメッセージを  
ひめゆりの塔及びひめゆり平和記念資料館で受け取ることができました。

### 3日目の平和学習

最後は、道の駅かでなを訪れました。

かでなは4階建てになっていて、  
屋上まで行くと嘉手納基地がよく見えるような設計になっていました。

嘉手納基地は、1945年4月、連合軍が沖縄戦で  
旧日本陸軍中飛行場を接收し、その後さらに拡張した基地のことです。

音の大きさを表すメーターがあり、昔はもっと音がうるさかったと聞きました。  
展望台でガイドさんの説明を受けましたが、飛行機の飛ぶ音がうるさく、  
はっきりと聞き取ることができないほどでした。

3階へと下ると資料館があり、  
米軍基地が建設される様子や、アメリカ軍と沖縄の住民の生活が  
どう関わってきたかという歴史を知ることができました。

ここで暮らす住民の、生活の疑似体験ができるコーナーがあり、  
中に入ってみると、基地のヘリコプターの音で、  
子供が家のバルコニーでお母さんに話しかけても  
聞こえないという会話が聞こえました。  
また、排気ガスのような臭いにおいがしました。

実際に起こった騒音の問題として、  
授業をしていて、うるさすぎて授業が中断になったというビデオを観ました。  
大学受験を控える男子高校生がインタビューに答えており、  
騒音問題がどれだけ住民の生活を邪魔しているのかという様子がよく分かりました。

騒音問題は、現在ではかなり解消されているそうです。  
ただ、それは地域住民が声を上げるのを諦めなかったからだ、という説明を受けました。

もし訴え続けることを諦めていたら、今でも苦しむ人たちがいたことを考えると  
あの体験コーナーでの生活を思い出し、ゾッとします。  
諦めず、権利を主張することは大変だと思いますが、  
自分たちの生活を守るために、また後の世代が同じように苦しまないようにするために  
必要なことなのだとははっきり分かりました。

2階に降りると、レストランが併設されていました。

私は、今回の旅で仲良くなった子とお土産コーナーのある1階まで降りました。

そこで、一緒にジーマーミ豆腐という、落花生から作られた豆腐を食べたのですが、とろとろとした食感で甘い味付けだったので、驚きました。

3日目の平和学習が終わりました。帰りはバスに乗り込み、少し疲れていたのでのんびりと過ごしました。ホテルに着くまでの道中で、ガイドさんが最後に話して下さったことが印象に残っています。

「騒音問題の件を含め、何事も、諦めずに声を上げ続けることが大事だ。そのためは、先ず、選挙に行き他人任せにしないという姿勢を持つとう。

私たち老人は、戦争のことをよく知っているから、選挙に行く意思を持っている。しかしながら、若者にそういった姿勢を見受けられないよう感じる。

そして、高齢者の投票率が高いことを候補者の政治活動をしている方たちは分かっているため、公約を老人受けのよいものに定め、掲げてしまう。

未来ある若者たちが  
日常の不合理を変えていかななくてはいけないのに、  
行動力のない若者ばかり増えている」

私はこの話しを受け、まずは自分にできること、  
例えば自分の身の回りのことについて興味を持ち、調べ、  
こつこつ行動へと移すこと

を、意識して生きていこうと胸に決めました。

### 3日目

オキタビ参加者全員で、美ら海水族館へ向かいました。  
水族館の前で集合写真を撮った後は、各自自由行動となりました。

自由行動になったので、中には水族館に行かなかった人もいましたが、  
私は館内へと向かいました。

美ら海水族館は、全長10メートルを超えるジンベエザメが有名です。  
ジンベエザメと一緒に撮りたくて、水槽の前で待ち構えていたのですが、  
私がいたところには来てくれませんでした…。

気を取り直して、大好きなクラゲコーナーを回りました。  
写真だけではなく、クラゲの泳ぐ姿を動画でも撮影しました。  
日常生活に戻ってきたように感じ、旅の疲れがとても癒されました。

館内出口では、写真コーナーでクジラの歯のオブジェとともに  
スタッフさんに一眼レフで撮影していただき、写真を購入しました。  
いいお土産になりました。

美ら海水族館は、とても広いです。  
外に出ると、マナティー館、ウミガメ館、イルカショーがあったので  
それぞれ見て回りました。

午後は、もとが元気村へと移動しました。  
沖縄の綺麗な海に入って、マリンスポーツを満喫しました。  
沖縄の自然に触れることができ、とても楽しいひとときになりました。

マリンスポーツを4つほど体験した後は、  
夜ご飯を食べるにはまだ時間が早かったので、  
海洋博公園熱帯と、亜熱帯都市緑化植物園を見て回り、リフレッシュしました。

夜になり、ホテルに帰った後は、  
オキタビ参加者で集まり、花火をしました。  
9月ですが、まだまだ暑く、夏を思いっきり楽しめた1日になりました。

## 4日目

オキタビ参加者全員で、コザミュージックタウンへ向かいました。  
班に分かれ、2日目の人とは違うガイドさんに案内していただきました。

私の班は、まずゲート通り呼ばれる通りを渡りました。

ゲート通りは、昔は軍道として使用されていたようです。

ボックス型看板は、台風飛ばされてしまうため  
店名は壁に描いてあったり、

インド含む東南アジアの方がたくさん住んでいることから、  
看板が英語表記のものであったり、

外貨両替所という事務所が生業として存在したり…

と、まるで3日間で知った沖縄とは  
また違った姿を見ることができました。

次に、アメリカの国境を見ました。  
人生ではじめて国境を見たのですが、  
普通に線が引かれているだけだったことに対し、衝撃を受けました。

少し歩くと、博物館につきました。  
子供たちがアメリカ兵に、チョコレートをください、と群がっている写真など、  
戦後直後の様子が残されていました。

ガイドさんが、当時の様子をはっきりと覚えていらっしゃるし、  
「とにかく貧しかった…」  
という言葉聞いたときには、胸が痛みました。

博物館を出て、図書館の屋上から、  
班の皆で沖縄の様子を眺めました。

沖縄は国土の0.6%しかないのに、  
日本の米軍基地の70%が集中していること。

在日米軍の給与、生活費などは、  
同盟強靱化予算(旧思いやり予算)で支払われており、  
日本の負担が大きいこと。

昔は、日本の法律で米兵を裁くことができず、  
米兵が沖縄の住民を人をひき殺してしまっても、  
無罪判決で済まされたこと。

など、実際に目にして体験してきたガイドさんの話からは、  
米軍に対する複雑な思いや、不平等でやり切れない体験から生まれる無力感、  
こうしてガイドを続けることで自分たちの権利を守り続けようとする責任感  
を感じました。

お昼の時間になり、タコライスを食べました。  
タコライスは、沖縄発祥の料理です。  
米軍が持ち込んだタコスをおなかいっぱいになるようにと、  
ごはんを加えたことで誕生したものであるそうです。

お昼を食べ終えた後は、また違った通りを歩きました。  
アメリカ色はあまりなく、昔ながらの沖縄、といった風景が続きました。

シーサーは魔除けで、口をとじているのが雌、開けているのが雄。

石敢當(いしがんとう)と書かれた石碑が色んな所に立っているのですが、  
「石敢當」とは中国の一番強い武将の名前で、魔除けとして置いてあること。

沖縄にたくさん生えている椰子の木になるココナッツは、赤ちゃんのミルクになること。

シークワサーは、香りを放つことによって害虫が近寄らないようになっていること。  
等々、たくさんの知識を学ぶことができました。

その後は、皆でバスに乗り、ホテルへと戻りました。  
自由時間になったので、ゆいレールで国際通りへ赴き、  
お土産をたくさん買いました。



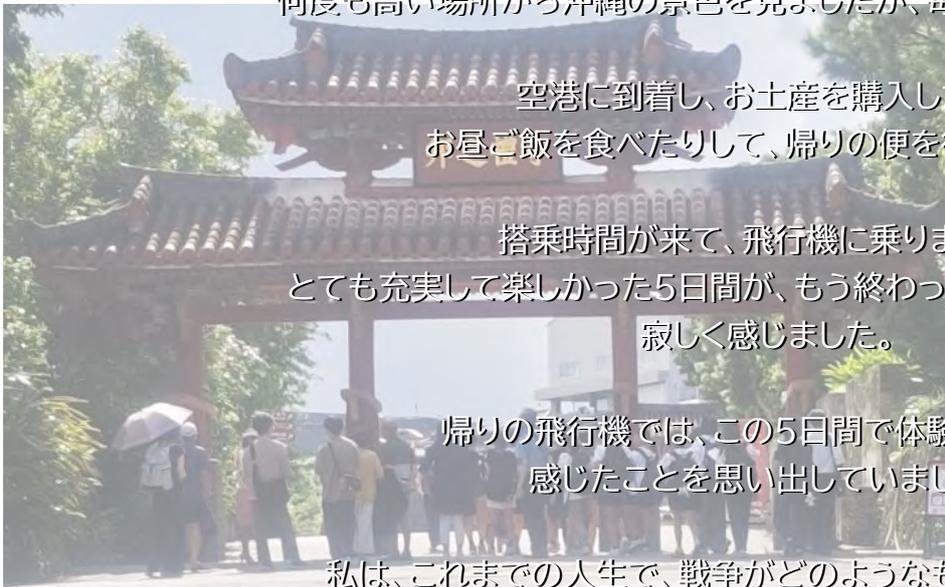
## 5日目



オキタビ最終日になりました。  
午後1時には、空港に集合して  
名古屋空港まで帰るというスケジュールになっています。

午前中は自由に動けたので、私は首里城まで行きました。  
首里城は今再建中なので、工事の様子を見ることができました。

石垣が続いていて、上に登ると景色を一望できる場所がありました。  
何度も高い場所から沖縄の景色を見ましたが、毎回新鮮で飽きません。



空港に到着し、お土産を購入したり、  
お昼ご飯を食べたりして、帰りの便を待ちました。

搭乗時間が来て、飛行機に乗りました。  
とても充実して楽しかった5日間が、もう終わってしまうのかと思うと  
寂しく感じました。

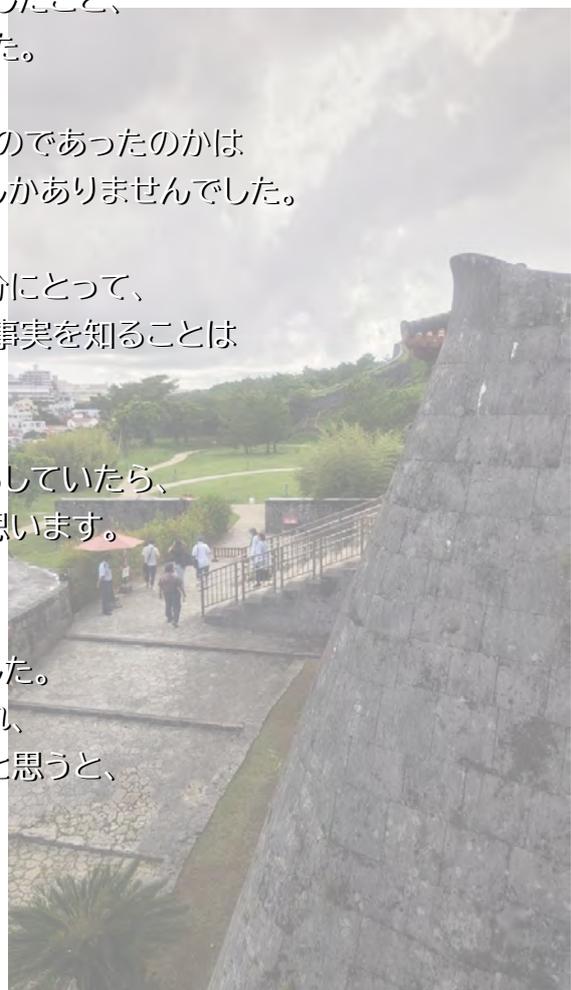
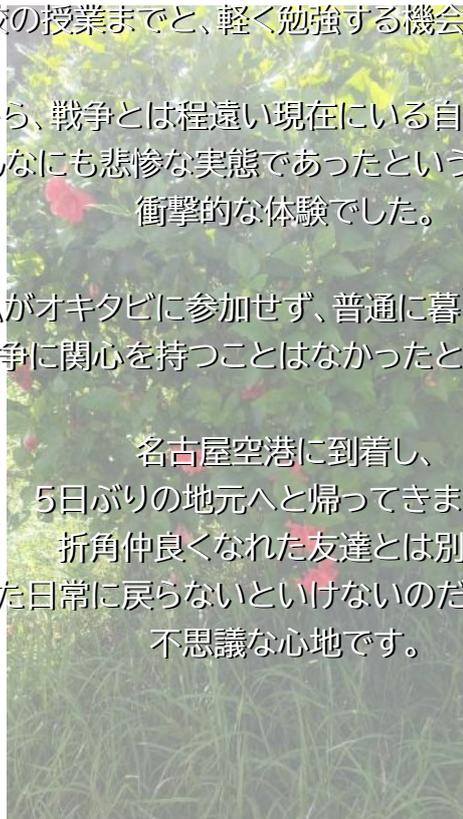
帰りの飛行機では、この5日間で体験したこと、  
感じたことを思い出していました。

私は、これまでの人生で、戦争がどのようなものであったのかは  
小学校から高校の授業までと、軽く勉強する機会しかありませんでした。

だから、戦争とは程遠い現在にいる自分にとって、  
戦争がこんなにも悲惨な実態であったという事実を知ることは  
衝撃的な体験でした。

もし私がオキタビに参加せず、普通に暮らしていたら、  
戦争に関心を持つことはなかったと思います。

名古屋空港に到着し、  
5日ぶりの地元へと帰ってきました。  
折角仲良くなれた友達とは別れ、  
また日常に戻らないといけないのだと思うと、  
不思議な心地です。



旅の始まりは、9/1と  
8月後半から続いた台風10号の影響もありましたが、  
無事日程の変更等することなく良いスタートダッシュを  
切ることが出来ました。

今回、私はひとりでスタディツアーに参加しました。  
空港に着いてすぐ他大学の学生と共にグループを作り、  
緊張もありましたが新鮮な気持ちで旅に望むことができました。

5日間の旅を通して、いま私が1番伝えたいことは  
「このオキタビという旅の良さは、実際に行かなくては分からない。  
だから参加できる機会のある、この報告書を読んでくださっている  
皆さんには、是非参加し、体験してほしい」  
ということです。

自由時間に訪れた

福州園  
美ら海水族館  
再建中の首里城

バスの移動で眺めた南北に渡る沖縄の景色、  
そしてオキタビに参加しなければ出会うことのなかった他大学の友人たち。  
学生生活とはまた違った思い出が、5日間の中に凝縮されています。

最後に、冒頭で触れた「くまのぬいぐるみ」について。

オキタビ2日目に訪れた沖縄県平和祈念資料館では、  
主に戦時中の子供たちの様子を学びました。  
その中で1番印象に残っているのは、展示場の入り口においてあった  
子供が好きそうなくまのぬいぐるみです。

「ボクがなぜ・・・！」と書かれた看板を目にし、展示場へと足を進めると、  
このくまのぬいぐるみは「地雷」であるということが分かります。  
子供がぬいぐるみを手にしたときに爆発するよう仕掛けられたというのです。

椅子の上で、くまのぬいぐるみが悲しい目をしているのを  
今でもはっきりと思い出すことができます。



# オキタビ報告 名城大学



# 【実感ポイント】

①ガマは決して特別な場所ではない。普通の道を進んで、普通の畑の横に。



②亡くなったのは私たちと同じ。ひめゆり資料館では女子生徒一人一人の死因が詳細に。



“普通の学生と戦争”

③基地は図書館の目と鼻の先。本当に身近な存在なんだ。



## [まとめ]

戦争の身近さを実感した五日間だった。基地があることで負の面もあれば正の面もある、多様な価値観に気付くことができた。まずは自分の考えを持って、平和活動をしたいと思う。

# 参加者からの 推薦コメント

2025年・夏  
ぜひ体験してみよう!!



- 沖縄の遊びと学びの両方を一気に楽しみたい方におすすめ!
- 「オキナワの旅」でしか得られない、貴重な体験があなたを待っています!!
- ツアーだけど、フリーの時間もしっかりあるので、沖縄の歴史を学ぶのも観光を楽しむのも、どちらも満喫できます!、ココでしかできない体験があると思います。
- 学びも遊びも十分にできます。友達といっしょに行くのをオススメします!
- 学びも遊びもでき、とても充実した5日間を過ごせます。オキナワの今を見て、自分の「未来」を変えていきましょう!
- 観光と学び、どちらも楽しめます! 現地の人との出会いも楽しもう! いろんな大学の参加者との出会いを楽しもう!
- オキタビでは「遊ぶこと」と「平和や文化について学ぶこと」が出来ます。特に学ぶという観点で普通の旅行ではいかにないガマや基地などの場所に行くと、教科書では書かれていない戦争の事を知ることが出来ました。ぜひ参加してみてください!!
- オキナワの自然・文化・歴史を自分の目でぜひ見てみてください!
- 戦争について平和について深く考える良い機会になりました。なかなか個人ではいけないところまで行けるのでおすすめです。
- 学生生活の最高の思い出になる旅!
- 遊び・学び・充実した5日間を過ごすことができます。
- 新しい友達ができる! 最高の思い出を作れる!
- 普段の旅では体験できない事が出来る。新しい仲間づくりができる。
- たくさんの思い出を作り、多くの学びを得る事ができました。貴重な体験になると思います!
- 5日間はあっという間で、沖縄の歴史も知れるのでとても良い思い出になります。
- オキナワの歴史を学びながら、観光も楽しめる、充実した5日間を沖縄でおくりましょう。
- 学びも多いのに楽しい事もたくさんあります!! ぜひ参加してみてください!!
- オキナワに行くと見ないとわからない、戦争の事、米軍基地の事、環境の事など、いろいろなことを知ることができます!!
- 平和学習と美しい沖縄の町や文化に触れられる素晴らしい旅でした。
- 現地にいかないと分からない事がたくさんあるのでぜひ参加してください。
- 濃い時間を過ごすことができ、オキタビでしか得る事ができない経験がたくさんあります。少しでも興味があったら参加してみてください。
- 遊んで学んでやりたい事が実現できる長くて短いオキナワの旅、夏の思い出にぜひ。
- 平和学習では、創造の数十倍はよい学びを得る事ができます。
- 沖縄を全力で楽しみたいなら「行きたいーと言いましょ」
- 行って初めて知る「戦争」がたくさんあります!
- 沖縄最高!!

## オキナワの旅2024報告集

作成：2024年年度オキタビ 参加大学生協 代表者派遣学生

岐阜大学・金城学院大学・名古屋工業大学・名古屋市立大学・三重短期大学・名城大学

全国大学生生活協同組合連合会 東海ブロック